

諸聖人

2020.11.1

第一朗読 黙示録 7・2-4、9-14

第二朗読 一ヨハネ 3・1-3

福音朗読 マタイ 5・1-12a

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

今日の典礼は諸聖人の祝日を祝っています。

諸聖人というと、わたしたちには縁遠い人たちのように思われるかもしれませんが。諸聖人がたはわたしたちがそのお名前も知らない、どのような御生涯を送られたかも解らない聖人がたです。けれども、諸聖人という呼び名は、わたしたちに親近感をもたらすとも言えます。今日の第一朗読で聴いた黙示録を思い起こしてみると、そこには次のように言われています。

「この後、わたしが見ていると、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。『救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである』」。この幻を見た黙示録の著者がこの白い衣を着た人々が誰なのかと尋ねると、「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである」と答えがあったと言われています。小羊の血は、神の小羊である主イエスの十字架上で流された御血を意味しています。わたしたちも、主キリストの十字架の死とその復活の過越しの神秘を示す洗礼の恵みを受けて、罪を赦され、白い衣を着せかけられた者たちで。

聖パウロも、諸教会に宛てた書簡の中で、信徒たちのことを聖徒と呼んでいます。わたしたちは普段そのように意識してはいませんが、パウロのことばによれば、洗礼を受けたわたしたちは皆「聖徒」たちなのです。

わたしたちは、自分の道徳的な精進によって自分の力で清い人、聖なる者となるわけではありません。主イエス・キリストの救いの恵みに与って、主イエスはその身をもって示してくださったように、神の子として全ての聖性の源である父なる神の本性、その聖性に与って、聖徒、聖なる者たちとされるのです。

今や神のみもとにあって、永遠の喜びのうちに、全てのいのちの源である父なる神に賛美と感謝を表明しておられる諸聖人がたを想って、この感謝の祭儀をお捧げいたしましょう。